

2011年度「館長懇話会」アンケート結果

アンケート実施機関 2011年10月31日～2011年11月30日
アンケート回答率 77.3% (調査依頼大学数 44大学 回答大学数 34大学)

1. 今年度の「館長懇話会」の運営、進行、座席の配列などについて感想をお聞かせください。(複数回答をされた大学があります。)

- ① 15大学 良かった
- ② 16大学 昼食時の90分という時間なので仕方がない
- ③ 1大学 どこかの大学にテーマに沿った事例発表という方法が良かったのではないかと
- ④ その他、ご感想
 - * 一部の大学(館)に話が集中し過ぎていた感があった。
 - * 実践事例の発表とそれを中心にした意見交換の組みあわせで進行する
 - * あれでよかったように思います。
 - * 参加者の自己紹介は、時間節約のため総会資料の出席者名簿で肩代わりし、省略しても良かったかも知れません。
 - * また、事例報告は、部会長校がされなくても各地区の理事校にテーマにふさわしい発表校を紹介して頂いてはいかがでしょうか。
 - * 座席の配列に館長間で私的な話しが出来るような工夫が必要と感じました。
 - * もっと多くの話を聞きたかったが、時間の制約がありしかたがない。
 - * スペースの制約があったとは思いますが、他の出席者の顔が見易い座席配置を工夫していただければと思いました。
 - * 学習支援に関する取り組み開発をテーマとし、従前よりも多数の他大学から意見が寄せられ、興味深く、情報交換できたと思う。
 - * 座席に関しては近隣の大学がいなかったように思います。
 - * 話題提供程度の事例発表があってもよいのでは。

2. 今年度の「館長懇話会」のテーマについてご意見をお聞かせください。

- ① 21大学 良かった
- ② 11大学 「学習支援」は広範な対応が考えられるため、焦点を絞ったテーマにした方が良かったのではないかと
- ③ その他、ご意見
 - * ①一度設定したテーマについては、3～5年同じテーマを扱い、それに関連した先行事例を発表してもらい意見交換ないし情報交換を行なう。
 - * ②館長懇話会のテーマと趣旨を事前に私図協HPIにupして周知をはかる。
 - * 様々な大学図書館の取組みが理解できたことはよかった。
 - * 館長懇話会のテーマは、実務的な事柄より、大学図書館の有り様とか将来の方向性とか大きなテーマが良い様な気がします。
 - * そういう点で、“学習支援”というテーマは良かったように思います。
 - * ある程度、テーマは絞られていた。
 - * 本学も学習支援については検討中であり、タイムリーなテーマで参考になった。
 - * テーマは複数である方が情報交換が活性化すると思う。
 - * 広く意見を集めるには、事前にテーマに沿ったアンケートを実施して、その中から指名する、という方法もいかなとと思いました。

3. 次年度以降、取り上げたいと思われる「館長懇話会」のテーマについて、お聞かせください。

6件 電子書籍(図書)・電子ジャーナルについて (各大学の取組み、取り扱い、電子書籍時代の大学図書館など)
関連「学術情報の在り方について」

値上げ→削減→値上げ→削減の繰り返しで、教育研究に対するサービスのテーマの低下について各大学がどのように対応しているか。

関連 デジタル化対応

5件 学生の図書館利用の促進

- ・各大学ないし各学部の導入教育と図書館利用のリテラシー教育のリンク
- ・図書館利用促進のための授業・教員との連携
- ・学部学生の主体的な読書の日常化と学生による図書館利用サポート体制の確立
- ・滞在型図書館の促進と課題

4件 ラーニング・コモンズ (私立大学におけるラーニング・コモンズの構築・運営など)

関連 アクティブ・ラーニングの場としての大学図書館

3件 今年の学習支援に関することは、しばらく追求してよいテーマかと思いました。

よりテーマを絞るなら、ラーニング・コモンズの運営、教育支援・関与の実施例、各担当教員との連携と実施方法など

2件 機関リポジトリ (私立大学における学術リポジトリの課題)

2件 各館における地域貢献あるいは地域連携の取り組みについて

2件 直近の西地区総会・研究会のテーマにそったものにする。

- * 書架スペースの狭隘化対応
- * 共同保存図書館について
- * 図書館職員と業者委託のバランス
- * 総合大学図書館と専科大学図書館の相互理解
- * 図書館利用におけるマナーについて
- * 新たな時代の図書館像について
- * 図書館の危機管理について
- * 多様な入館者へ向けて、その選書方法
- * 研究支援

4. 貴館が「学習支援」という点で重点的に取り組んでおられることがありましたらお聞かせください。

- * 学生サポーターの配置、学生選書ツアー、DB活用講座、Webサイト充実、DB充実、PC環境整備等
- * 新入生全員(約3000名)に対する利用教育、ゼミ受講生への文献探索法、教員採用試験小論文対策講座、レポート作成講座
- * 利用者への講習会
- * レファレンスコーナーの機能強化
- * PBLのサポート
- * 主にOPAC、データベース、電子ジャーナルを使った各種の情報検索ガイダンスを実施している。
- * 受講形式は教員の申し込みによるクラス単位のもの、個人が自由に参加できるものがある。
- * 「教科支援ガイダンス」で図書館の利用・情報収集の方法など多彩なプログラムを組み、授業の一環として実施している。
- * 教員との連携により英語力をつけるための支援として、英語の多読によるラーニング「てくてくEnglish」に2011年4月より取り組んでいる。
- * 「キャリア形成講義」の授業の教室に就職活動に必要な図書や雑誌を持ち込み、図書館司書が生の資料を実際に見せながら案内する“Reference Delivery”を実施し
- * 初年次教育(大学生生活入門セミナー)や基礎演習・専門演習での文献検索ガイダンス
- * 情報探索講習会
- * 常に学生の要望にできるだけ早く対応すること。
- * 入学後、各学科共通の「大学基礎」という科目の中で、班毎の時間を割り振って、図書館が行なう学習支援について説明しています。
- * 館員による電子データベース等の学内研修会の開催
- * 学習支援は、大学図書館にとっては永遠のテーマですね。時代とともにその実態は変貌しています。現在の本学では、図書館ガイダンスに多くの時間と労力を注いでいると思われまます。
- * 滞在型機能の強化
- * ラーニングアドバイザー制度
- * 進路支援図書の充実
- * 学習用図書の整備(シラバス掲載の教科書・参考書)
- * 共有学習ゾーンの導入
- * 図書館利用ガイダンスの受講率の向上
- * 来年7月に開館予定の新中央図書館への移転後に、大学院生によるライブラリー・アシスタント制度を導入すべく準備中です。
- * 広報活動の強化や学生・教職員へのアンケート調査を通じて学生のニーズ等の把握に努力しています。
- * 前年次開講科目「情報リテラシー」で図書館と共働で文献検索等のガイダンスを実施していること。
- * 前年度に講義用参考図書の募集を行い、「学修ガイドブック」に掲載される指定参考図書を図書館に取り揃えている。
- * 専任教員・非常勤講師1人5冊迄
- * グループ学習室および研究個室の設備と活用
- * パソコンコーナー(約100台)を学生に提供
- * 指定図書・推薦図書コーナーの設置
- * 読書会
- * 学生選書ツアー

- * 今年の懇話会で出た意見に関することの中では、学生ボランティアの活動促進、支援があります。ブックハンティングの実施なども学生ボランティアが主催して実施しています。
- * レファレンスカウンターの充実を計っております。
- * ラーニング・commonsとしての機能を兼ね備えた新しい学習空間「ピア・ラーニングルーム」を開設
 - ・主体的な学習者としての学びの転換を促すこと
 - ・仲間(Peer)とともに学ぶ楽しさ、成長する喜びを感じる場であること
- * 語学担当の教員と連携し、多読教育のサポートをしています。英語多読用図書(PB)を購入し、学生に提供しています。

5. その他、総会の運営、進行、日程、時間配分などでお気付きのことがございましたお聞かせください。

- * もっと意見交換のための時間を取る方がよい。食事と意見交換を分け、食事は先に済ませて(15分程度)、また自己紹介もどの大学(館)の誰がどこに座っているかわかる座席表を配れば必要ない。そうすれば約70分は実質的な意見交換の時間に充てることができる。
- * 毎回でなくてよいので、どこかで十分な時間をとって議論を尽くしてみたいと思います。
- * 限られた時間内での運営としては良かったと思います。
- * はじめて参加したのですが、多くの業界関係者と知り合いになることができ、それぞれに取り組みされている内容が認識できたことは有益でした。
- * 分科会の時間の延長を要望します。
- * 今年の様で良いと思いますが、2時間は必要だと感じました。
- * 大枠は今のやりかたで良いと思います。報告の部分は、どういことがあったのかを網羅的に伝えるよりも、主観的でも構わないので、特に注目すべき議論や発見などを選んで発表してはいかがでしょうか。
- * 現状で十分有益な会合であると思う。